

# 歯車

学校だより  
河北町立西里小学校  
令和二年四月三十日

## 時代

校長 舩山 聡

臨時休業中でしたが、児童にマスクをつけてもらい、四月二十日（月）に新任式・始業式、そして入学式を行い、ようやく令和二年度をスタートさせることができました。町からいただいたマスクも配付できました。

八時二十分。新任式・始業式は、校内放送で行いました。教室で放送にじつと耳を傾ける子ども達。新任式は、代表して清野教頭先生からの挨拶。続いて児童代表、六年後藤結愛さんからの歓迎の言葉。実に立派でした。そして始業式。私は、次の三点を話しました。毎朝検温し、手を洗い、マスクをつけて感染予防に心がけること。計画を立てて学習や生活に規則正しく取り組むこと。そして、新型コロナウイルス感染症による、差別やいじめは、けつしてあつてはならないということです。

その後、在校生は授業となりました。感染防止のため在校生の入学式への出席はありません。ですが、授業の中で臨時休業や入学式に参加しない理由とか、新型コロナウイルス感染症について、担任から子どもにもわかるように説明してもらいました。子どもも子どもなりに知る必要があります。在校生が教室で勉強している一方で、体育館ではトトロの曲に合わせて、一直線に入場してきた一年生がいました。ちよつと緊張気味で手と足の動かし方がぎこちない子やお家の人を見つけて余裕で手を振る子など、男子八名、女子六名、計十四名の一年生を迎え、入学式が始まりました。今年はいないで、体育館中央付近に椅子を置き、新入生と保護者が

向かい合うような形で行いました。新入生呼名、校長の話、花束贈呈と、二十分弱で終わりました。「きつとマスクをしなくてもいい日があります。学校が始まったら、みんなでいっしょに遊びましょうね。」と私は一年生に話をしました。義務教育九年間へのスタートとして、短かったです。入学式ができたことが何よりでした。一年生はとてがんばりましたね。

今とはとにかく、新型コロナウイルス感染症に対する取り組みが一番です。学校が、感染の場になってはならないと考えています。知らないうちに感染し、自覚がないまま感染を拡げてしまったらと考えると、影響は計り知れません。だれにでも起こりうることです。だれのせいでもありません。

また、子ども達の学力をどうするか。これも子ども達の未来に関わる大きな問題です。学校からの課題の他にも、工夫次第では方法があります。NHKでは、インターネットや教育テレビで授業に役立つ番組を放送しています。山形県教育委員会のホームページでも、様々な学習プリントを利用できます。この休業をきっかけに新しい学習の仕方をつけられるかもしれません。今後、子ども達の心と身体の状態を見極めながら、無理を承知でふんばつて学習を進めていかなければならない場面もあります。

医療や経済も厳しさを増しています。また、日本各地で地震も増えてきたように感じます。新型コロナとは別の大きな危機がくるかもしれません。想定外を想定して、準備を進めていきます。今はできるだけ外出を控え、大型連休も自宅で過ごせたらと思います。

いつしか桜も散つてしまいました。長く記憶に残る時代となります。

この時代は、これからの子ども達の生き方に大きな影響を与えることになると考えています。

